



まつもと医療センター広報誌

Vol. 53 2024.1



ひなたぼっこ 撮影：宮坂 泉（管理課）

◆ 目次

2p 院長新年のごあいさつ

3p 第13回登録医大会を開催いたしました

4p 第77回国立病院総合医学会採択通知者一覧結果
病 院 祭

5p お知らせ

6p 冬の病気

7p こしはら内科クリニック紹介

8p チーム医療紹介・編集後記

理念

いのちの尊さを重んじ、質の高いやさしい医療を提供します

基本方針

1. 医学的根拠に基づいた医療を安全に提供します
2. 適切かつ十分な説明を行い、理解と同意を得た医療を提供します
3. 患者さんの思いを大切に、敬意と思いやりの心で接します
4. 地域の医療機関と連携し、地域医療の向上に努めます
5. 教育研修の充実を図り、職員の能力向上と人材育成に努めます
6. 常に前進・研鑽し、臨床研究を通じて医療水準の向上に努めます
7. 明るく健全な病院運営を行います
8. 職員ひとりひとりが誇りを持ち、働きがいのある病院をめざします

患者さんの権利

わたしたちは以下の患者さんの権利を守り、最善の医療を提供するように努めます。

1. 良質かつ適正な医療を平等に受ける権利
2. 自己の病状や予後・治療の手順とその危険性および有益性・代替手段についての十分な情報提供を受ける権利
3. 他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
4. 意思に反する場合、情報を知らされない権利
5. 検査の諾否や治療法の選択について、自らが決定する権利
6. いつでも自己の決定を取り消すことができる権利
7. 個人の医療情報に関するプライバシーが守られる権利
8. 健康教育を受ける権利
9. 人格や価値観が尊重され、尊厳を保って生を全うする権利
10. 小児患者さんの生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利



新年のごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が5類相当に移行しましたが、当院は地域の中核病院として1年通して変わらぬ対応が続いています。そんな中でも、面会解除（2月）、職員送別会（3月）、お花見（4月）、看護の日（5月）、信州外科集談会（6月）、院内水族園（7月、エプソンと共催）、市民公開講座（7月、塩尻市と共催）、松本ぼんぼん（8月）、一泊二日の職員セミナー（8月）、病院祭（10月）、病院慰霊祭（10月）、登録医大会（11月）、アルプス会（12月）、互助会忘年会（12月）とコロナ以前の病院行事のほぼ全てを無事再開することができました。世界では、2022年のウクライナ軍事侵攻に続き、2023年にはイスラエルのガザ侵攻と先が見通せない状況が続いており、その影響で私たちも物価や光熱費の高騰の影響を受けています。新年度には医療介護のトリプル改訂が控えており、厳しい予測がされています。またいよいよ本格的に働き方改革が実行される中で、今までの医療看護水準を下げない工夫と実効性のある労働管理の方策が求められます。コロナウイルス感染症の初期も先の見えない混乱と恐怖がありましたが、私たちは職員一丸となってそれも乗り越えてきました。少子高齢化による働き手の減少や都会と地方の格差など、問題は山積しています。しかし、混沌とした今の時代こそ、命を救うという本来の理念に立ち返って、日々の診療に当たりたいと考えます。

さまざまな困難な状況下でもレジリエントな病院であるべく、柔軟な思考と対応を大切にしたいと思います。本年もよろしくお願いいたします。

院長 小池 祥一郎



第13回登録医大会を開催いたしました

こ み やま いつき
包括医療支援センター長 小宮山 斎

まつもと医療センターでは、地域の開業の先生方（かかりつけ医）と相互に連携し、患者さんの病状にあった継続性のある医療を地域で切れ目なく提供するため、登録医制度を運用しております。当院では現在、289の医療機関の先生方に登録医としてご登録いただいております。登録医の先生方と、より一層の相互連携の促進を目指して、当院では年に一度、登録医の先生方をお招きして登録医大会を開催しております。本年は令和5年11月8日（水）アルピコプラザホテルにおいて、4年ぶりに対面形式での開催をすることができました。13回目の今大会では、登録医の先生方と当院の職員を含めて105名の方にご参加いただきました。

Part 1 は講演会として当院の佐々木哲郎脳神経外科医長より「脳神経外科の一人医長として考えること」、宮川雄輔外科部長より「消化器低侵襲手術の実際」について講演させていただきました。ご参加いただいた先生方からは「新しい治療法に感激しました」「他科の治療症例を診ることがないので勉強になります」等のご意見をいただきました。脳神経外科では、一般的な脳神経外科疾患の他にも、脳卒中などでの痙攣（手足の筋肉の突っ張り）の診療、頭痛診療などを行っております。外科においては、患者さんの体へ負担の少ない腹腔鏡などを使った低侵襲手術を積極的に行っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



Part 2 は親睦会を行い、直接顔を合わせて意見交換をさせていただくことができ、親睦を深める良い機会となりました。先生方には、診療でお忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。この場を借りて感謝申し上げます。

末筆となりましたが、今後も地域医療に貢献できるよう職員一同努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

第77回国立病院総合医学会採択通知者一覧

ホスター 口演等	演 者	所 属 等	演 題	受賞名
ポスター	清水 果歩	看護部 東4病棟	ストーマを造設した患者への統一した退院支援をするための活動報告	
ポスター	笠原 邑斗	看護部 西3病棟	COVID-19感染症患者とのオンライン面会を経験した家族の思い	
ポスター	大和 恭子	看護部 西2病棟	重症心身障害児(者)における看護師のやりがいについて明らかにする ～配属当時から思いと戸惑い・やりがいの調査を通して～	
ポスター	山本 欣司	看護部 東6病棟	病院機能評価受審後の更なる継続性について	
口演	池谷 みちこ	看護部 看護部長室	「急性期看護補助体制加算取得に向けて」～派遣業務技術員導入による試み～	
ポスター	岩本 大紀	薬剤部	免疫チェックポイント阻害薬投与時の検査実施率向上を目指した多職種チームによる取り組み	
ポスター	古波田 悠	リハビリテーション科	臨床現場に適した食事用自助具の見直しと病棟への貸し出しルールを整備した取り組みについて-栄養科と連携した事例-	
口演	牛山 聖也	リハビリテーション科	心筋梗塞後の心不全増悪および薬剤性肺疾患を呈し長期呼吸器管理をした症例に対しHALを使用した一例	
ポスター	堀田 朋勢	リハビリテーション科	肢帯型筋ジストロフィーに合併する拡張型心筋症による心不全患者に対し運動耐容能評価と生活環境調整を行った症例	ベストポスター賞
ポスター	野池 航季	リハビリテーション科	高齢者の心不全療養 活動と栄養の見える化	
ポスター	白崎 牧子	リハビリテーション科	急性大動脈解離術後、気管切開、経管栄養管理となり、長期臥床により筋力低下した症例に対するリハビリテーションが難渋した一症例	ベストポスター賞
ポスター	伊藤 克彦	リハビリテーション科	外来心リハを通じて、運動耐容能は向上しなかったが、定期的モニタリングによって再入院を回避した心不全患者の一例	
ポスター	佐藤 里絵	リハビリテーション科	作業療法士視点からのリハビリテーションパスを用いて介入を行った肺線維症を伴う心不全患者の1例	ベストポスター賞
口演	高橋 実	事務部	コロナ渦における地域包括ケア病棟の患者構成の変遷と今後の展望	
ポスター	伊藤 麻綾	療育指導室	重症心身障害児(者)病棟に入所をする重症心身障害児・者の終末期をどう支えるか～多職種カンファレンスの取り組み～	
ポスター	原田 崇浩	臨床検査科	臨床と連携により早期治療に繋がった< I>Mycobacterium</ I> < I>ulcerans< I>subsp.< I>shinshuense</ I>によるブルーリ腫瘍の1例	

病 院 祭

10月7日、天候にも恵まれ無事病院祭を開催することができました。

様々な催しを通じて地域の皆様とつながることができ、楽しい一日となりました。

足を運んでいただいた皆様、本当にありがとうございました。



手術室での挿管体験



手術器具の体験



院内探検ツアー（薬剤部）



お知らせ

トリアージ訓練

11月24日、松本市にて大規模災害が発生したと想定して院内で初めてのトリアージ訓練を行いました。非常事態に対応できるよう今後も継続して行いたいと思います。

*トリアージ訓練とは…災害時などに診察や治療を行うべき患者の優先順位を決めて、トリアージタグを用いて色別に分けた上で治療に当たる訓練です。緊急時により多くの患者さんを効率よく診療するために重要になります



慰霊祭

当院では2年ごとに1回病理解剖にご献体いただいた方への感謝と供養を兼ねて、慰霊祭を行っています。

該当年である今年は10月11日に参列した職員が献花と黙祷を行いました。



◆ 今後の予定 ◆

○第二回 職員セミナー

日にち：2月16日（金）、17日（土）

○第42回地域医療支援病院運営委員会

日にち：2月14日（水）

○互助会 送別会

日にち：3月6日（水）

冬の病気

2023年冬の感染症について



まつもと医療センター 宮 林 秀 晴

皆さま今年は暖冬と言われていますが、寒暖の差が激しく、体調を崩しやすい季節になっていますが、いかがお過ごしでしょうか。

この原稿を書いている現在（12月15日）厚生労働省発表によると、12月4日から10日に報告された新型コロナウイルス感染の新規感染者は合計1万7379人で、1 定点医療機関（全国の感染症調査医療機関・全国で約5千）での新規感染者数は3.52人（前週は2.75人）とまだ前週に比して1.28倍になり、3週間連続で増え続けています。毎年冬になるとコロナウイルス感染が増える傾向があり、今後も注意が必要です。コロナウイルスに関しては重症化を防ぎ、症状が軽くすむワクチン接種が有効であり、現在の株EG.5(通称エリス)にもある程度有効です。来年度からは有料となるワクチン接種を受けておいた方が良さそうです。治療では解熱鎮痛薬・咳止めなどの対症療法、持病（喘息・慢性呼吸不全・心不全・糖尿病・高度肥満など）を持っている方は保険診療扱いにはなりましたが、発症早期にラゲブリオR・パキロビットパックR・ゾコーバRなどの抗ウイルス薬を5日間飲むことで症状の重症化、後遺症などを防ぐことができますので相談してみることが必要です。

さらに今年の特徴として**季節性インフルエンザウイルス感染**が増加を続けています。今年は9月ごろの早くから発生し、急激に増加し、さらに12月を迎えることで増え続けて、学級・学校閉鎖を招いている事態が特徴的です。こちらの新規感染者数は同12月15日で16万6690人になり、コロナ感染の約9.6倍、定点医療機関で新規では33.72人で前週26.72人に比べて1.26倍と1 定点あたり30人を越え、今シーズン初めて大流行の発生レベルとなりました。今年のワクチン接種の効果はまだわかりませんが、インフルエンザに関しては高熱・今までなかった咳・咽頭痛などがありましたら、他の人との接触を避け、48時間以内に医療機関を受診し、抗原陽性となったら、アセトアミノフェンなど抗炎症薬、抗ウイルス薬（内服薬としてタミフル^R 5日間・ゾフルーザ^R 1回・吸入薬としてリレンザ^R 5日間・イナビル^R 1回・注射薬としてのラピアクタ^R）があります。各々症状・重症度・医療機関などによって使い方が違い、インフルエンザの合併もありますので、指導に従った治療が必要です。

また、コロナウイルス感染がはやった時期に抗体（抵抗力）獲得ができなかったためか、**溶連菌**感染・今になっての**プール熱**などもあり、感染症外来がいつも一杯になっています。コロナ感染の時期のように、帰ったときの手洗い・うがい・アルコール消毒のほか、原点に立ち返って最近は外す傾向がある、人が集まるときのマスク着用が有効ですので、考えてみてはいかがでしょうか。



こしはら内科クリニック



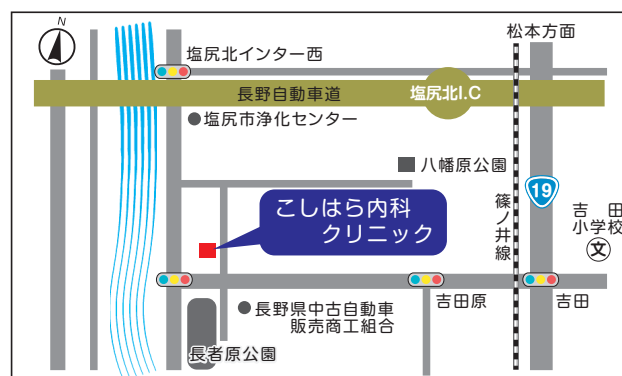
診療科目：内科・神経内科

所在地：〒399-0701 長野県塩尻市広丘吉田551-5

休診日：水曜日・土曜日の午後、日曜日、祝日

お問い合わせ：TEL 0263-86-5480

こしはらひろし
腰原啓史先生



<診療時間>

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00 ~ 12:00	●	●	●	●	●	●	—
15:00 ~ 18:00	●	●	—	●	●	—	—

2015年5月、塩尻市広丘吉田に『こしはら内科クリニック』を開院いたしました。まつもと医療センターの近隣に位置し、日頃から大変お世話になっております。多くの先生方からご指導やご協力をいただき、急病の患者さんの紹介にも快く応じていただき、心から感謝申し上げます。また、訪問診療を安心して行えているのも、まつもと医療センターの先生方のご支援によるところが大きいと感じております。

当院では、一般内科や神経疾患を含む生活習慣病、予防接種、健康診断、睡眠時無呼吸症候群、訪問診療など、幅広い診療を提供しております。地域の『かかりつけ医』として、患者さん一人ひとりに寄り添い、信頼できるパートナーとなることを目指しております。

訪問診療では、住み慣れたご自宅や施設で、生活に寄り添った医療を提供することを心がけております。住み慣れた場所で療養生活を過ごされる患者さんは、入院中にはできなかったことができたり、入院中には見られなかった穏やかな表情や多くの笑顔を見ることができます。その瞬間はとても嬉しく、訪問診療の特別な魅力であり、今後の診療の励みとなっています。

最近では、異常気象による自然災害が頻発しているためいつ停電するかわかりません。当クリニックでは、停電時でも最低限の診療ができるように、太陽光発電システム、蓄電池システム、V2H (Vehicle-to-Home)、電気自動車を導入しました。環境・経済・防災の三つの面からの対策を講じ安心して頼られるクリニックを目指しています。

今後ともよろしくお願いいたします。

チーム医療紹介

栄養サポートチーム (Nutrition Support Team : NST)



私たちは、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・医療社会専門員・管理栄養士など多職種からなるチームです。普段はそれぞれの専門分野の業務を行っておりますが、特別な栄養治療を必要とする入院患者さんにチームとして関わっております。メンバーそれぞれが専門分野の視点から栄養について意見を出し合い、より良い栄養治療方法を検討しております。今後も主治医や受け持ち看護師等と連携しながら活動を行ってまいります。



編集
後記



新年あけましておめでとうございます。

今年は暖冬とのことですが、朝起きると寒くて布団から出るのにも苦労です。なんだかんだ信州の冬は寒いんだなあとひしひしと感じています。

さて、新年が始まり抱負を立てる方も多いかと思います。仕事や家族、趣味のこと色々あると思います。私はズバリ「将棋初段」。昨年達成できなかったことを、今年こそはと意気込んでいます。

みなさまにとって2024年がいい年になりますよう願っています。

(M)

まつもと医療センター

第 53 号

令和 6 年 1 月発行

発行人 院長 小池 祥一郎

〒399-8701

長野県松本市村井町南2丁目20番30号

TEL.0263-58-4567 FAX.0263-86-3183

<https://matsumoto.hosp.go.jp/>